

普通期栽培水稻の有望系統「西南136号」の特性



「西南136号」の玄米



‘ヒノヒカリ’の玄米



‘日本晴’の玄米

表 「西南136号」と‘ヒノヒカリ’、‘日本晴’との特性比較（2010～2012年）

品種・系統名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	収量構成要素			精玄 米重 (kg/10a)	食味関連形質		白未熟 粒割合 (%)	外観 品質 (1-9)
						穂数	1穂 粒数 (粒)	登熟 歩合 (%)		タンパク質 含有率 (%)	アミロース 含有率 (%)		
西南136号	8/9	9/13	75.1	19.9	308	84	75.9	23.9	470	6.49	15.57	11.1	4.1
ヒノヒカリ	8/20	9/26	78.7	19.5	324	82	77.9	22.4	466	6.67	15.71	23.3	5.5
日本晴	8/13	9/17	77.3	20.6	323	88	74.0	23.3	489	6.94	17.34	18.8	4.8

注) 7試験区(農業技術センターと県内6地点)の3カ年の平均値を示す。移植期は5月10日～6月12日、窒素施肥量は3.0～10.2kg/10a、栽植密度は11.9～18.5株/㎡。1穂粒数は農業技術センターの値で、登熟歩合は精玄米重とその他の収量構成要素から算出した推定値。タンパク質含有率、アミロース含有率は玄米による値で、数値が小さいほど食味が優れることを示す。外観品質は1～3が1等、4～6が2等、7～8が3等、9が規格外に相当する。

高知県の普通期栽培水稻では、高温による品質劣化が著しい‘ヒノヒカリ’にかわる高温耐性に優れる品種が求められています。また、作業分散や自然災害を回避できる品種も望まれています。そこで、‘ヒノヒカリ’より早生で高温耐性に優れる系統「西南136号」(鹿児島県育成)の特性を‘ヒノヒカリ’、‘日本晴’と比較検討しました。

「西南136号」の出穂期は8月9日、成熟期は9月13日となり、‘ヒノヒカリ’より10日以上早く、‘日本晴’とほぼ同時期でした。稈長、穂長、穂数および収量には大きな差はみられなかったものの、玄米千粒重は23.9gと最も重く、白未熟粒割合は11.1%と最も低く、玄米外観品質も最も優れました。ま

た、タンパク質やアミロース含有率は‘日本晴’に比べて低く、良食味米の‘ヒノヒカリ’とほぼ同じでした。

これらのことから、「西南136号」は‘ヒノヒカリ’よりも大粒で高温耐性に優れ、普通期栽培の作業分散が可能な良食味系統であることが分かりました。

「西南136号」は‘ヒノヒカリ’よりも高温耐性が優れますが、登熟期間は最も気温の高い時期と重なります。今後は「西南136号」の高温耐性についてさらに詳細に調査するとともに、食味官能試験を実施し、実用性の評価と栽培適地の検討を続けていきたいと考えています。

(水田作物担当 高田聖 088-863-4916)

高知県農業技術センターニュース 第71号 平成25年3月25日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 岩崎 昭雄

農業技術センター

〒783-0023 高知県南国市廿枝1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

農業技術センター山間試験室

〒789-0315 長岡郡大豊町中村大王3523-7

TEL (0887) 72-0058

FAX (0887) 72-1544

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064 高知市朝倉丁268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801 吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>